

## ボランティア活動に参加してみたい方へ

- ①学生ボランティア団体に参加してみる
- ②学外のボランティア団体・NPO等に参加してみる } → **団体紹介ページ**(p16-23)
- ③ボランティア活動のコーディネートや企画運営を一緒にやってみる → **SCRUM紹介ページ**(p4-5)
- ④ボランティアフェア(ボランティア団体の紹介イベント)に参加してみる → **特設サイト**(各種リンク)
- ⑤ボランティア情報メール配信サービスに登録してみる → **公式サイト**(各種リンク)のフォームから

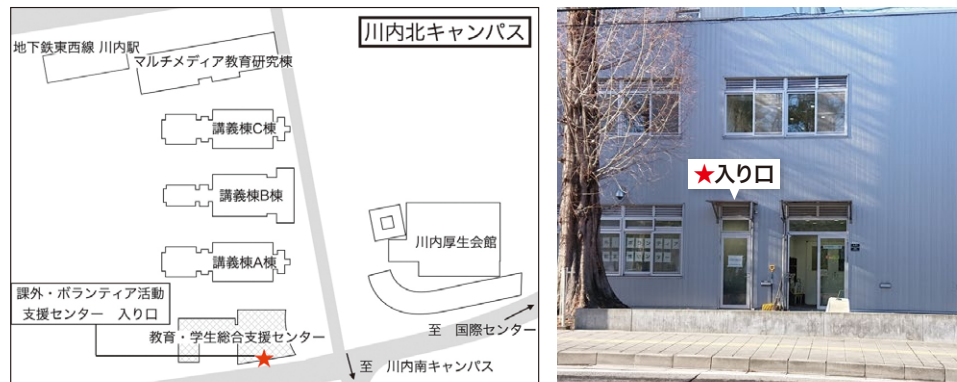
## 課外・ボランティア活動支援センター利用案内

在学生の皆さん向けに、ボランティア活動に関する個別の相談を受け付けています。ボランティアの情報がほしい、活動に関する悩みがある、団体設立を考えている等、どのような相談内容でも構いませんので、お気軽にご利用ください!

### 【時間・相談予約】

対応時間: 平日11:00~19:00(原則)

予約方法: 公式サイト(各種リンク)にあるフォームからお申し込みください



各種リンク

SCRUM SNSで情報発信中! | X @TOHOKU\_VOL | Facebook @voltohokuuniv | Instagram @scrum\_1446

課外・ボランティア活動支援センター  
公式サイト



ボランティアフェア  
特設サイト



# Volunteer Seminar Journal Vol.19

発行日 令和6年(2024年)4月1日

発行者 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41

編集者 松原久・高橋結・伊藤方子・矢崎碧・明珍達也・上園真輝人

連絡先 TEL:022(795)4948 Mail:vol.tohoku.univ@gmail.com



# Volunteer Seminar Journal Vol.19

2024 Spring  
ボランティアセミナージャーナル



## INDEX

### 東北大学のボランティア支援

課外・ボランティア活動支援センターについて ..... 3

東北大学SCRUMについて ..... 4,5

### 私たちの社会とボランティア活動

【座談会】第1回 震災復興・地域支援ボランティア ..... 6~10

【座談会】第2回 教育・学習支援ボランティア ..... 11~15

### ボランティア団体の紹介

団体一覧 ..... 16

震災関係 ..... 17,18,19

国際 ..... 19,20

防犯 ..... 20

地域支援 ..... 20,21

教育・学習支援 ..... 22,23

キャリア・若者 ..... 23

ボランティア活動に参加してみたい方へ ..... 24

各種リンク ..... 24

## はじめに ボランティア活動への招待

東北大学では、東日本大震災をきっかけに、大学周辺や被災三県の各地でボランティア活動を行う学生の皆さんの動きが活発になりました。それから10年以上が経過した現在でも、伝承・発信や復興支援、平時からの地域支援とかたちを変えつつ各地での活動は継続しています。さらに新たなジャンルの活動(国際系、教育・学習支援系など)も拡がりつつあります。

ボランティア活動は、地域を知り、人と出会い、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。東北大学課外・ボランティア活動支援センターでは、学生の皆さんがボランティア活動に参加し、活躍できるさまざまな場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください!

### 課外・ボランティア活動支援センターが提供する主な支援

支援	具体例
ボランティア活動に関心のある皆さんへの活動紹介・活動体験機会の提供	ボランティアフェア(ボランティア団体の紹介イベント)の開催、ボランティア体験プログラムの開催、個別相談、ボランティア情報のメール配信等
社会貢献活動を取り入れた授業の提供	(ページ下を参照)
ボランティア活動を行う団体の支援	研修会の企画、団体間連絡会議の開催、物品・場所の提供、助成金の紹介
新たなボランティア活動の企画・創出	救援活動の企画(災害発生時)、地域社会と連携した(ニーズに対応した)新たな活動の企画
学生スタッフSCRUMの育成	(次ページを参照)

### 授業の提供

東日本大震災被災地等でのフィールドワークや活動体験を通して社会に貢献しながら学ぶことのできる科目を、以下のように開講/開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学んでみましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
国際教育科目	国際教養PBL「東日本大震災の経験を未来につなぐ」	松原久、高橋結	【1S,3S】月2
カレントトピックス科目	福島復興・再生	御手洗潤、高橋結ほか	【2S,4S】木5


※下線部は、課外・ボランティア活動支援センター教員

# 東北大学SCRUM

東北大学SCRUMは課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織です。ボランティア活動を「したい人」「している団体」のつなぎ役(中間支援)として、それぞれに向けた活動・企画を行ってきました。また、充実した支援を行うため、SCRUMメンバー自らが多様なボランティア活動の企画・参加や勉強会の企画も行っています。SCRUMでは、以下のように「活動における3つの柱」を掲げています。

SCRUMでは、メンバーが関心のあるテーマごとに直轄部に所属し、長期的に活動しています。他にもプロジェクトチーム(PT)を結成し、細やかな活動を行っています。

さらにSNSや勉強会などを通して、メンバー外への情報発信活動なども積極的に実施してきました。




**学ぶ・深める**

- 震災伝承・防災部
- 魅力発信部
- 災害救援部
- ボランティア部
- 各種 PT

SCRUMは、ボランティアをやりたい人と、実際にやっている人・団体をつなぐ「ボランティアのボランティア」をしています。ボランティアをしたい人に対しては、ボランティア活動の広報を行い、ボランティア団体とは合同企画の実施や情報共有・連携を行っています。

SCRUMはセンターと連携して、ボランティア団体合同説明会(ボランティアフェア)や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の執筆など、様々な形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。



**ボランティア  
の  
ボランティア**

SCRUMでは、震災伝承に関する活動や、災害時の緊急災害支援活動など、多岐にわたるボランティア活動を実施しています。

また、他のボランティア団体と連携した活動にも取り組んでいます。



**ボランティア**

- 新たなニーズに対応したボランティア活動の企画、実施
- 緊急災害派遣
- その他、団体への所属
- 直轄部・PTでの活動

## 直轄部

左のページの「学ぶ・深める」にある通り、『直轄部』ではそれまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定して勉強会を開いたり、実際に現地に赴いて活動を行ったりしています。

名称	活動内容
震災伝承・防災部	震災の記録と記憶を伝え続け、災害を自分事として捉えてもらうための活動を実施しています。震災遺構での語り部活動や、学生を対象に震災や防災を学ぶためのツアーを行っています。
災害救援部	有事の際に、自分たちには「何ができるのか」を考え、すぐに行動に移すことができるように活動しています。災害時の緊急支援だけでなく、日頃から災害救援活動に対する勉強会などを実施しています。
魅力発信部	地域の魅力を発見し、その魅力を発信することを目的として活動しています。Instagramでの情報発信や地域の魅力を探るツアーの実施などに取り組んでいます。
ボランティア部	メンバーの興味関心に沿ったボランティア活動に取り組み、ボランティアの輪を広げることを目的に活動しています。各種イベントや地域交流を促進するためのボランティア活動などに取り組んでいます。



○震災遺構大川小学校で語り部を行う様子(震災伝承・防災部)



○足湯講習会の様子(災害救援部)



○石巻市で魅力発見ツアーを行う様子(魅力発信部)



○荒井東町内会と連携して企画したクリスマス会の様子(ボランティア部)

# 座談会

## 第1回 震災復興・地域支援ボランティア

東日本大震災の発災から13年。被災地域で支援活動をする団体の人々は、どのような課題に直面し、どんなことを考えながら活動をしているのでしょうか。5人の先輩にお話を聞きました。



司会 矢崎 碧  
 ■課外・ボランティア活動支援センターAA  
 ■文学研究科修士1年

※座談会は2023年11月に実施しました。学年は実施時(昨年度)のもので。

### 活動内容について

一はじめに、皆さんがどんな活動をされているのかを教えてください。

**鈴木:** ほかほかは岩手県の陸前高田市で主に活動していて、三本柱というのを軸にしています。「コミュニティ形成支援」としてサロン活動\*や子ども向けイベント、「地域活動の支援」として伝統行事のお手伝い、「伝承情報発信」としてスタディツアーなどをしています。

**渡邊:** インクストーンズの活動の拠点は宮城県石巻市です。サロン活動\*を吉野町と門脇町の主に2箇所で行っていて、スタディツアーとして震災遺構大川小学校や震災遺構門脇小学校を訪問しています。最近はそのを伝えようということで、パンフレットを作って大学祭で焼きそばと一緒に配りました。

\*「サロン活動」「カフェ活動」: 公営住宅等でお茶会や手芸企画を行うことを通して、住民の同士のつながりを深める場をつくることを目的とした活動のこと

一パンフレット見ました。とてもいいですね。

**永井:** 福興youth(以下、youth)は、福島県の海沿い、浜通り地域で主に活動している団体です。カフェ活動\*や、農業・地域行事のお手伝いをしています。あとは、伝承施設などで震災や福島第一原発事故について学ぶスタディツアーをしています。

**吉田:** たなぼたは、場所をあまり限定していません。仙台市大和町、石巻市あゆみ野、そしてSCRUMさんと合同で荒井東(仙台市)、という3つの地域の災害公営住宅にお邪魔して、サロン活動\*をしています。ほかにも地域のお祭りのお手伝いなどをしています。

**松浦:** HARUは山元町で活動をしていて、内容は大きく分けて3つです。「山元はじまるしえ」「コダナリエ」などのイベント運営、農作業のお手伝い、小学生にプログラミングを教えたりする子ども支援をしています。

### 団体に所属したきっかけ

一皆さんがそれぞれの団体に所属したきっかけについて、聞かせてもらえればと思います。

**鈴木:** 私は縁あって大学生活を東北で、となった時に震災について知っておきたいと思って。でも十年経った今でもできることってあるのかなと思っていました。その中で1年生の時に震災に関する講義をとって、「何よりも忘れないでほしい」という言葉がすごく印象に残ったので、2年生からボランティアを始めました。ほかほかは、サロン活動に重きをおいているなと感じたのと、陸前高田という遠いところには自分ではなかなか行かないだろうなと思って選びました。

**渡邊:** 僕は、入学したときはボランティア団体に入つつもりはなくて、学生会スキー部一本でやっていこうと思っていました。そんな時にインクストーンズの新歓ツアーがあって、たまたま暇だったので行ってみようかなと、〆切直前の23時53分くらいに申し込んで。メンバーを見て本当にいい人たちだなと感じて選びました。

**永井:** 私は大学に入った時になんとなくボランティアに興味があるという漠然とした感覚しかなかったのですが、やっぱり東北に来たので震災のことを知りたいなと思っていました。youthのミーティングの見学に行ったときに、原発のことを何も知らなかったなということに気づいて。震災の時私は小1だったので知らないことが多く、津波のことも原発のことも学べるなと思ったのでこの団体に入りました。

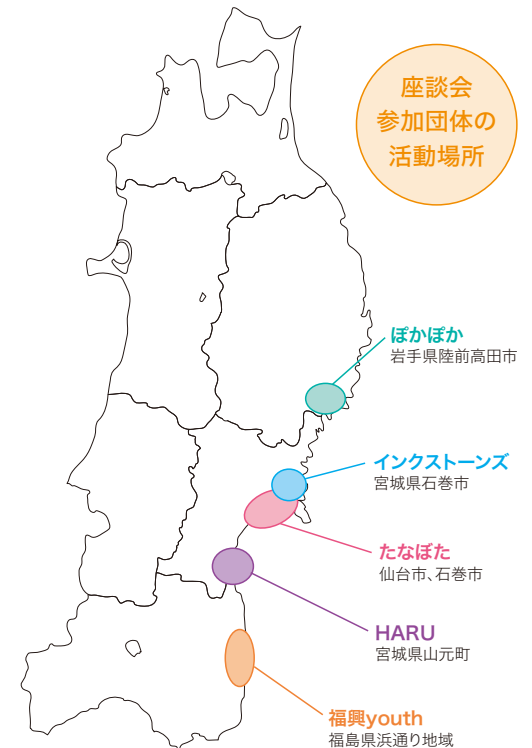
**吉田:** 私も、東北に来たから震災のことを知っておきたいというのは思っていました。それともう1つ、地域の方と話してみたいなという気持ちがあったので。一緒に会話できて、震災のことも知れる場を探した時にボランティアがありました。たなぼたを選んだのは、本当に参加しやすくて。活動場所に地下鉄で行けたり、

雰囲気もゆるいので気軽に参加できるのが良いなというのがありました。

一たなぼたという団体名は、「棚からぼたもち」から?

**吉田:** それもあるのですが、もともと1年生向けの講義から派生していて、「単位がなくてもボランティアしたい」の頭文字から名付けています。

**松浦:** 僕は大学に入るまではボランティア団体に所属しようと思っていなかったのですが、入学式の時に学長が「自らの専門性を設計する」と仰っていたことが印象に残りました。それで自分が専門にしたいことは何かと考えたときに、都市計画をやりたいなと思って。そのためには防災が重要だということで、ボランティアサークルに入りました。



印象的な思い出

一皆さん、1カ月半だったり2年だったり、活動をする中で色々経験してきたと思います。その中でも印象的な思い出などはありますか？

**渡邊:**とびっきりの思い出とかではないですけど、行ったときに(活動先の方が)毎回笑顔になってくれたり、最近は「みんなが来てくれて、毎回会う顔があるから年寄り生きていられる。これからもよろしくね」と言ってくれたり。(活動をすることの)意義は毎回感じますね。

**吉田:**私も同じで、「若さをもらってる」という話をよく聞きます。あと、月に一回行っているので、「これを楽しみにしているよ」って毎回言ってくれたりとか。去年盛り上がったクリスマス会も楽しみにしてくれているみたいです。

一荒井東は子どもも結構参加していますよね。

**吉田:**そうです。これまで高齢者の方が多かったのですが、秋祭りのお手伝いとか、「寺子屋」で一緒に勉強しようという企画をしたりして、ちょっとずつ増えています。

一いいですね。公営住宅の中で年代の違う人たちの交流が生まれたり。

**吉田:**小さい女の子がいるのですが、(公営住宅の)おじいちゃんおばあちゃんから名前を覚えていて、すごく可愛がられていたり。縦のつながりができているのはすごく良いなって思います。

**鈴木:**私も似た話になるのですが、サロン活動でモザイクアートをしたときに、すごく好評で。マス目に色を塗ってみんなで一枚の作品をつくるのですが、今年の

春に作ったものを、未だにずっと貼ってくださっていることがすごく嬉しかったです。

一モザイクアート、準備が大変なんですよ。今でも飾ってくれているのは嬉しいですね。

**松浦:**子ども支援が一番印象に残っています。僕の小学生の弟と比べても(山元町の子どもたちが)プログラミングの知識をすごく持っていて、そこに復興の兆しをみました。復興って被災前に戻すというよりはより発展させていくものだと思うのですが、一番重要なのは教育なのかなと思って印象に残っています。

一なんでプログラミングがそんなに発達しているのでしょうか。

**松浦:**放課後にプログラミングを教えてくれる団体があって、その活動で詳しくなっているみたいで。逆に僕が教えてもらうような感じ。すごいなって思いました。

**永井:**福島県の大熊町に「KUMA・PURE」という施設があって、そこで2年連続で活動させてもらったのですが、その時に参加してくれた人同士で連絡先を交換していたんです。「あそこで働いている方なんですよ」とか。私たちの企画で参加者同士のつながりがつくられた瞬間を見て、こうやって輪が広がっていくんだ、と。それを実感できて、ちょっと嬉しかったなっていう経験があります。



活動をしていて感じる課題

一先ほど話にもあったように、皆さん震災当時は小学生で、いま震災の発生から10年以上経つ中で活動されていると思います。そういった中で、皆さんが活動されていて感じる地域の課題などはありますか。

**松浦:**やっぱり、復興が次の段階にきていると思います。コミュニティ形成や心理的なケアの段階から、次の技術開発や教育とかに力を入れた活動をしていくべきかなと思っています。住民さんの話を聞いていても、新しい生活に慣れてきたりとか、ポジティブな意見を持っている人もいて。子どもたちに目を向けて、次の発展に力を入れていくべきかなと思います。

一なるほど。そうすると、どんな風にアプローチしていきたいとあってありますか？

**松浦:**大学生として教えられることもあると思うので、子どもたちに(勉強などを)教えるボランティア活動はしていきたいなと思います。

**渡邊:**13年経つと、今までやってきたことを同じようにやるだけではダメだと思うんですよね。サロン活動の目的は住民さん同士のコミュニティ形成なのですが、僕たちが行っているところでは、いつも来てくれている人同士ではもうコミュニティができています。だから、公営住宅に住んでいてまだいっしょしていない方々にも視点を置いていかなきゃいけない。戸別に訪問してみると一人で過ごしている方もいて、そういう人たちも巻き込めたら良いなと思います。

一他の人で、同じような課題を感じている人はいますか。

**吉田:**(たなぼたの活動場所も)参加する人が固定メンバーになりつつあります。高齢になって来られなくなっていく人もいたり。サロン活動の企画もマンネリ化してきていて、折り紙では「手先が見えない」という声もあるので、やり方も変えないといけないなと思います。住民さんから「力仕事のお手伝いをして欲しい」という声もあって、若い力が足りていないということも感じます。

**鈴木:**私も地域の伝統行事に参加していて、若者がすごく減少しているのを感じます。お世話になっている自治会が、私たちがいないとお祭りが成り立たないくらい若者が少なくなっているんですよね。だからこそボランティアに行く意味があるとも思うのですが、伝統がこれからも続くために何ができるのかな、と。

一切実な問題ですね。伝統を終わらせる決断もなかなか難しいし、でも若者は減っていくし、という…。

一福興youthはどうですか。

**永井:**他の方も話していたように、公営住宅については、元々津波の被災者や原発の避難者が暮らす場所としてつくられたのですが、今は新しい入居者も増えてきています。新しい住民さんにどうやってカフェ活動に参加してもらえるかとか、今まで住んでいた方とのつながりをどう作るかというところは課題かなと団体の中で話しています。

一インクストーンズは、今後の活動について具体的に考えていることはありますか？

**渡邊:**新しく何かをやるというのもあるけど、やっぱりコツコツ通うというのがすごく重要なかなあとは思っていますね。住民さんが相談をしてくれるとか、そんな距離感まできたらすごくいい。そうなるためには、できるだけたくさん行く。個人でとか、たとえば卒業してからもとか。目標達成に向けて、地道に一つ一つというのが大事なかなと考えています。

一なるほど。コツコツ続けて信頼関係を作っていくというところですね。皆さんの代はコロナで(活動が制限された)ということもありますし、関係を結んでゆくというのは簡単ではないですね。



—今回の企画では、震災の発生から時間が経つ中で、皆さんが地域で何を感じてどんな風に活動しているのかなということを知りたかったですね。皆さん同じように、若者の減少や高齢化に直面しているんだなと思いつつ、次の段階として子どもたちに希望を感じているというお話もあって、すごく良いなと思いました。皆さん色々と考えながら、これからも活動を続けていくのだと思います。

### 新入生へのメッセージ

—それでは最後に、これから加入する新入生や新メンバーの皆さんへメッセージをお願いしたいと思います。

**渡邊:**僕は、入って良かったなと。普通の大学生って、地元と大学、2つのまちでしか暮らせないなかで、3つ目のまちに深く関われるって言うのはすごく良いことかなと思いますよね。色々な見方も得られるし、もう1つ自分の拠点のようなものを作れる、面白がるって言うのはボランティアの1つの魅力かなと思います。

**永井:**私も入学したときは、ボランティアも何か良いのがあったら入ろうかなくらいの、すごくぼんやりした感じでした。それでも入ってみたら色々なことを学べるし、見方が変わったり、良いこといっぱいあったので。ちょっとでも興味があったらミーティング行くとか。せっかく大学生だし、この機会にボランティアどれか入ってみたらどうかな、というのがメッセージですね。

**鈴木:**まずボランティアに入る・入らないに関わらず、少しでも震災について知ったり、知ったことを家族や地元の友達に伝えていくということを意識してもらったら嬉しいなと思います。さらにそこからボランティアとして関わりたいという方がいたら、東北大の内外でも色々なボランティアがあるので、自分に合う団体を見つけて関わりを持ってもらえたらいいんじゃないかなと思います。

**松浦:**ボランティア団体に入った後の話をすると、僕自身、最近まで受け身で活動をしてしまっていて。そうではなくて、目的意識をもって積極的に取り組む。そうすると、自分も楽しくなってくると思うし、活動先の方々もよりメリットを得られるようになるんじゃないかなと思うので、それが良いと思います。

**吉田:**他の大学の人や友達にボランティアサークルに入っていると言うと、「え、すごい」って驚かれることが多くて。大変な活動というイメージがあると思うのですが、私たちがやっている活動はどちらかというと、人と交流して、大変というよりは笑顔が多い活動かななと思っているので、ちょっとでもイメージが変わったら良いなと思っています。少しでも興味のある人は気軽に見学、参加をしてみしてほしいなと思います。

—5人ともそれぞれの思いが聞けて、すごく良いメッセージでした。皆さん今日はありがとうございました。

# 座談会

第2回

## 教育・学習支援ボランティア

教育をとりまく環境は日々変化しており、多くの課題を前に、さまざまな団体が活動をしています。学生として支援活動に携わっている4人の先輩にお話を聞きました。

キッズドア ▶ P.22 まとう しゅうか <b>佐藤 秋華さん</b> (教育学部3年)	アスイク ▶ P.22 すげやま たかし <b>杉山 鷹志さん</b> (理学部3年)	特別支援室・学生サポーター ▶ P.22 いしざわ まゆ <b>石澤 真優さん</b> (法学部2年)	仙台自主夜間中学 ▶ P.23 まくち れい <b>菊地 怜さん</b> (農学部3年)
--	--	--	---

司会  
 かみその まさと  
**上園 真輝人**  
 ■SCRUM所属  
 ■経済学部2年

※座談会は2023年11月に実施しました。学年は実施時(昨年度)のもので。

### 活動内容について

—まず、皆さんの所属の団体と、団体の簡単な説明をお願いします。

**石澤:**私は特別支援室というところで障がいのある学生の修学支援を行っています。主な活動としては、聴覚に障がいのある学生に向けて音声情報を文字化するという支援を行っています。大学の構内に置かれているバリアフリーマップの作成に携わっているのも学生サポーターです。

**菊地:**仙台自主夜間中学は仙台駅東口のアクセスのいい場所にあって、私はそこでボランティア活動をしています。自主夜間中学は主に学び直しをしたい方への学習支援をしていて、戦争、障がい、病気、家庭の事情などで適齢期に学びきれなかった方々を主な対象として学びの場を提供しています。今は、不登校で学校に通えてない子や、障がいがあって社会には出たけど

実生活で困っているという方など、結構若年層の方も学びに来ています。

**杉山:**僕はアスイクというところでボランティアをやっています。内容としては、中学生もしくは高校生の学びのサポートがメインとなります。具体的には、基本的な学習支援や受験の情報の提供などです。もしくは家庭のさまざまな事情を抱えている子どもたちのための居場所作りをしています。

**佐藤:**キッズドア東北(以下、キッズドア)でボランティアをしています。キッズドアは、「すべての子どもが夢や希望をもてる社会へ」をスローガンに掲げて立ち上げられた認定NPO法人で、宮城県では仙台と南三陸で活動しています。仙台の方では、無料の学習会の開催、不登校支援、体験活動を行っています。体験活動は、たとえば料理・農業・モノ作り体験などがあります。

ボランティアをはじめたきっかけ

一皆さん多種多様なボランティアをされていますね。皆さんのはじめたきっかけってなんでしょう。

**石澤:** 私は、東北大に入ってここでできないことってなんだろうと考えたときに、ボランティアがあるとあって、SCRUMにはそれがきっかけで入りました。それで、他にも何か関わられたらと思ったときに、中国語の教室の前の壁に学生サポーターの募集チラシが貼ってあって、行ってみようかなという気持ちで体験に行きました。

一そうですね。僕もSCRUMに入ったのは、ボランティアをやりたいと思って最初に紹介されたのがSCRUMだったからっていう、本当に小さなきっかけなんですよ。他の皆さんはどうですか。

**菊地:** 私は仙台自主夜間中学(で活動をするの)は今年で5年目になります。きっかけは、地元紙の河北新報が組んでいた特集記事をみて知って。高校1年生のときに、自分が今学んでいることを将来じゃなく今活かさないかなというもやもやと、自分が勉強する意欲がほしいという個人的な理由から「何かしたい」と思って、ふと仙台自主夜間中学のボランティア募集を見たときに「新聞でみたやつだ」と思って応募して、今に至ります。



**佐藤:** 私は教育学部のグループLINEにボランティア募集が流れてきて、それに興味を持ったのがはじまりです。興味をもった理由は、大学での学びになにか活かせるんじゃないかという風に考えたからです。もともと教育学部に進学した理由は、中学・高校のときに経済的理由を背景に進学を諦めてしまった友人がいて。そういう方や不登校の子たちが学校以外の場所でどういう学びをして、どこでどんな学びをしているのかに興味があって、調査したいからなんです。なので、キッズドアでボランティアをすることで、実践の場としての経験や知識が得られるんじゃないかと考えて応募しました。

一キッズドアで学んだことを大学での学びに活かしてみたいな。

**佐藤:** そう、そういう感じです。実際の現場でこそ得られる情報や経験があるんじゃないかなと思って。

印象に残っていること

一皆さんは2、3年、長い方だと5年くらい活動を続けてきたと思うのですが、なにか印象に残っていることはありますか。

**杉山:** 1つには、「一番古い記憶ってなに」という話を中学3年生としたときに、「3.11の避難生活です」と言ってもらったことがあります。もうそんな世代なんだなと。中学2年生に同じ質問をしてみると、「(震災は)記憶にないです」と言っていて、もう震災を知らない世代が増えているんだなと思いました。もう1つとして、大学の数学の話を子どもにすることがありまして、すごいなと思ったのが、目を輝かせて聞いているんですよ。普段の数学もそれくらい頑張ってくれたら嬉しいなと思いつつ、でも数学に夢を見てくれたら嬉しいななんて思いながら。そういう経験ってむしろ中学校だけじゃできないかもしれないと見ていて思ったのが印象に残っていることです。



**佐藤:** 今の杉山さんの、数学の話をする目を輝かせるという話、すごくわかるなあって思いました。私は文系なのですが、理系で地層系の研究をされている大学院生の方がいて、私にはわからない地層の話を中学生の子にしていたら、めちゃくちゃ意気投合して盛り上がっていて。こういうところに大学生と中学生が一緒になってお話をする良さがある。知らない知識とか知らない世界を知ることができるというのは確かにすごくあるなと、お話を聞いていて感じました。

一なるほど。

**佐藤:** 自分の経験としては、子どもたちと距離がどんどん縮まっていくのはすごく嬉しいです。最近だと「来週末来ますか」とか、あと「今日って秋華さんいないんですか」とって他のボランティアさんに話している子もいたりするという話を聞いたり。それだけ学習会にくることやお話をすることを楽しみにしてくれる子がいるんだなというのはすごく嬉しくて、やりがいとして感じます。

一ありがとうございます。石澤さんはなにかありますか。

**石澤:** 私たちが行っている活動として、授業の音声情報の文字化っていう支援があります。これは他のメンバーのお話なのですが、授業の参加者の方が笑いながらお話しされていたことの語尾に、本当に無意識く

らいで「(笑)」をつけたそうです。そしたら、利用する学生の方から「それすごく嬉しいんですね」というお話があって。

一音声情報に「(笑)」ですか。

**石澤:** そう。他にも例えば、読点と区別して悩んでいるときの点を3点リーダーにしたり、ため息とか「えーっとな」とか。会話の情報としては何も得られないかもしれないけど、雰囲気伝えるには必要みたいなものを、最初は見づらくなると思って消してたんですけど。でもこういうのって最終的に取捨選択するのは利用学生さんなんですよ。だから、自分たちもニーズを聞くだけじゃなくて、利用する学生さんとの会話の中でアンテナを立てて、必要とされていることが何なのかを考えていかないといけないなと思いました。

一たしかに、型にはまらないで模索し続けるのも大事ですよ。ありがとうございます。では次の話題に移りたいと思います。



活動をしていて感じる社会課題

一皆さんはそれぞれの活動の中で教育格差であったり、経済格差であったりとか、そういった社会課題に向き合ってきたと思うんですが、その中で皆さんが強く感じた社会課題について伺いたいと思います。

**石澤:**社会課題と言われると漠然としますが、私は2つあるかなと思ってます。1つ目は、私たちの活動って法律で義務化されているんですよね。間違えないように言うと、大学に対して、障がいのある学生に修学機会を確保するための合理的配慮が義務化されている。これがまず知られていないと思いますし、そもそも合理的配慮の合理的って抽象的じゃないですか。言葉だけじゃイメージしづらい。そういう環境だと、バリアが多くなってしまふのかなと思っています。

—僕も知らなかったです。

**石澤:**2つ目の課題として思うのは、支援する側・される側に分かれてしまっているように感じることです。例えば町なかで白杖を持った方などがいらっしゃいますが、「手を貸してあげようと思ったのに」みたいなことを言ってる方がいて。でもこれってただ友達にペンを貸すのと本質的には同じことじゃないですか。隣の子がペンを忘れたときペンを貸した、そのとき「助けてあげた」なんて思わないじゃないですか。この、手を貸して“あげる”の考えの違いがどうして生まれてしまうのかと考えてしまいます。

—なるほど。他の方はどうですか。

**杉山:**活動して思うのは、学習以外の体験を子どもたちがする機会が少ないなと思っていて。学習以外の活動や体験を、どこかこの社会の中で、経済的に困難な状況であっても何かできることはないのかなという風に感じています。

**佐藤:**私はボランティアの人手不足を感じますね。キッズドアは、今ボランティア登録は100人くらいいますが、頻繁に来てくれるボランティアはその半分くらいなんです。特に大学生は入れ替わりが激しかったりするので、継続的に来てくれるボランティアは少ないように感じます。というも、経済的困難を抱える子どもたちが意外と多いということを、活動して

る中ですごく感じています。キッズドアでも定員に達して募集を停止している学年があるんですが、それでも問い合わせが来ている状況があると職員の方から聞いたりもします。

—そうなんです。

**佐藤:**ご家庭にこういう場所があるということは伝わっていても、人手や設備の問題からこちらの受け入れる体制が整っていないと、行きたいと思ってるお子さんとかご家庭を支援することもできないということに課題を感じます。



### これからについて

—今後も活動していく上で、これまでの話を踏まえてなにか新しくやりたいこと、継続していきたいことなどあれば是非聞かせてください。

**石澤:**私は自分がやっていることを周りに伝えるっていうのをしていきたいですね。「バリアフリーマップ作ったから見てみてよ」とか、「青葉山北キャンパス意外とすごいガタガタなんだよね」とか、こういうことを周りに言うだけでも、バリアフリーマップなんてあったんだ、とか。一人でも多くの人に知ってもらえるかもしれない。身近なところからどんどん周りに伝えていくことが、一人の人間としてできることかなって思います。

**菊地:**私としては、宮城にいる間はこの活動を続けようと思っています。その上で今、ケアブレンド(→p.21)でボランティアスタッフとしてその会を運営しながら、交流の時には、自主夜間中学のパンフレットを持って行って宣伝をしています。こうやって宣伝活動をしていると、知らなかったというだけで終わる人、興味持ってください人、中には「自分の知り合いに学校通えなくてそのままになっちゃった人がいるから教えてみる」と広めてくださる方もいました。パンフレットを100枚、1000枚配ったうちの1人でも、こういう場所が欲しかった、こういう場所に行きたかった、知れてよかったという人がいればいいなと思ってやっているの、これも続けていきたいなと思います。

—必要な人はきつーと思います。

**杉山:**お二方の話を聞いて思ったのは、情報発信の仕方って大事なのかな、と。ボランティアの活動内容や魅力を伝えることも大切ではあるけれど、ボランティアするあなたを待ってますよ、ボランティアをするあなたが必要なんです、と伝えることもまた、周りにボランティア活動の輪を広げていくうえで大事なんだと感じました。

### 新入生へのメッセージ

—最後に、新入生へ向けて一言お願いします。

**石澤:**私たちの団体は様々な学部・学年から入ってきて、本当にいろんな人がいます。もしかしたら堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、本当に穏やかな温かい場所なので、興味がある方は是非のぞきに来てみたり、調べてもらえればと思います。

**菊地:**新入生の皆さんには、興味があることには後先考えずに何事にもチャレンジしてほしいと思います。自分や周りの人で、自分がこれまで得てきた学びを共

有したいとか、学びたいのどこで学べばいいかわからないという人と出会った場合は、仙台自主夜間中学という単語を思い出してくれると嬉しいです。

**杉山:**自分が学びを得たというよりは、学びを受けたという感覚を持ってたなら、是非それを次の人にパスしてほしいです。そのパスする場として、アスイクというのがありますよっていうのを覚えておいてもらえれば。

**佐藤:**1番言いたいのは、世界は広いよ、ということですかね。高校までと違って、大学生になると他県から、あるいは海外から学生が来たり、いろんなバックグラウンドを持った人がいっぱいいます。ボランティアをする中でも、他大学の学生や社会人など、自分が経験したことがないことをたくさん経験している人がいっぱいいます。自分が体験してこなかったものに興味を向けて、世界は広いんだなって感じてほしいです。

—新入生にとってもきつーと刺激になる座談会だと思います。皆さん今日はありがとうございました。





## ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学生も参加する学外のNPO法人等をご紹介します。  
 課外・ボランティア活動支援センターでは、例年、興味のある団体の説明が詳しく聞ける「ボランティアフェア」なども企画しています。  
 ★連絡先等は各ページをご覧ください!

01	東北大学 SCRUM	震災関係	登録内	17p
02	東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	震災関係	登録内	17p
03	東北大学 インクストーンズ	震災関係	登録内	18p
04	東北大学 福興youth	震災関係	登録内	18p
05	東北大学ボランティアサークル たなぼた	震災関係	登録内	18p
06	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災関係	登録内	19p
07	震災復興・地域支援サークル ReRoots	震災関係	登録内	19p
08	国際ボランティア団体 As One	国際	登録内	19p
09	東北大学フェアトレード推進サークル amo	国際	登録内	20p
10	東北大学ボランティアサークル あすなさ~ASUNASA~	防犯	登録内	20p
11	東北大学 公共空間ポッチャプロジェクト D&I	地域支援	登録内	20p
12	東北大学光のページェント Navidad	地域支援	登録内	21p
13	NPO法人 ケアブレンド	地域支援	登録外	21p
14	NPO法人 COLLAWAKE(コラウェイク)	地域支援	登録外	21p
15	特別支援室・学生サポーター	教育・学習支援	登録外	22p
16	NPO法人 アスイク	教育・学習支援	登録外	22p
17	認定NPO法人 キッズドア	教育・学習支援	登録外	22p
18	仙台自主夜間中学	教育・学習支援	登録外	23p
19	NPO法人 TEDIC	教育・学習支援	登録外	23p
20	一般社団法人 ワカツク	キャリア・若者	登録外	23p

## 00 団体名

QRコード

ジャンル 登録内 / 登録外

- 1 活動内容  
(目標、活動場所・地域、頻度、具体的な活動等)
- 2 ミーティングの頻度等
- 3 メンバー数
- 4 団体の魅力・アピール
- 5 新入生へひとこと

学生ボランティア団体として  
 大学に登録しているかどうか

代表:代表者名 | E-mail:hoge@example.com

## 01 東北大学 SCRUM



X

震災関係 登録内

- 1 SCRUMは、学生のボランティア活動を支援しながら、メンバー自らも震災伝承に関する活動や地域の魅力発信活動などメンバーの興味関心に沿った多様なボランティア活動に取り組んでいます!
- 2 毎月第2火曜日 ③50名
- 4 #ボランティアのボランティア #幅広い活動 #学ぶ・深める
- 5 SCRUMでは、メンバーの興味に沿って幅広い活動をすることができます!興味を持ってくれた方はいつでも連絡してください!



代表:菅原 一真 | E-mail:vol.tohoku.univ@gmail.com

## 02 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか



Instagram

震災関係 登録内

- 1 岩手県陸前高田市において、月1回程度、高齢者向けのサロン活動、子ども向けのワークショップ、伝統行事のお手伝い、被災地でのスタディツアーなどを開催しています。加えて、週1回、活動内容についてのミーティングを行っています。
- 2 毎週水曜日 18:00~20:00 ③29人
- 4 #陸前高田 #人との繋がり #震災伝承
- 5 ボランティアに興味のある方、色んな人と関わることが好きな方、何か打ち込めるものが欲しい方、ぜひぽかぽかに入りませんか?



代表:富樫 愛 | E-mail:tohoku.poca2@gmail.com

### 03 東北大学 インクストーンズ



Instagram

震災関係 登録内

- 1 石巻市内の公営住宅を訪問し、コミュニティ形成支援を目的とした住民さんとの交流活動を行っています。また、震災について学習するスタディツアーも実施しています。
- 2 毎週月曜日 18:00~(長期休業期間等を除く) ③ 41名
- 4 #被災地支援 #震災学習 #石巻の魅力発信
- 5 気軽にボランティアを始めたい方、人との交流を楽しみたい方、震災について学びたい方、大歓迎です!



代表:佐藤 昂誠 | E-mail:tohoku.inkstones@gmail.com

### 04 東北大学 福興youth



Tumblr

震災関係 登録内

- 1 福島県浜通り地域を中心に震災復興のお手伝いをしています。コミュニティ形成支援やスタディツアーなどの活動を、月に1~2回の頻度で行い、福島の現状と魅力を発信しています。
- 2 毎週木曜日 ③ 40名
- 4 #コミュニティ形成 #福島の今を知る #人とのつながり
- 5 福島県や震災復興に興味がある方はぜひ私たちの活動にも興味を持っていただけると嬉しいです。



代表:荒本 直樹 | E-mail:fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

### 05 東北大学ボランティアサークル たなぼた



X

震災関係 登録内

- 1 3B(Band・Beginner・iBasho)を目標に気軽に参加できる企画を通して交流の場を作っています。石巻あゆみ野地区、仙台市大和町、仙台市荒井東でそれぞれ月に1回ずつ活動しています。
- 2 特に決まっていない(月1回を目安に毎回投票で日付を決定)
- 3 30名程度
- 4 #季節に関する工作 #各地域のイベント補助 #地域の方と交流
- 5 地域の方々とおしゃべりしながら楽しくゆるっとボランティアしませんか?興味のある方はいつでも大歓迎です!



代表:吉田 琳 | E-mail:tanabotatohoku6@gmail.com

### 06 東北大学地域復興プロジェクト HARU



HP

震災関係 登録内

- 1 東日本大震災の被害にあった宮城県山元町を盛り上げるために週1くらいの頻度でイベントの企画・運営、聞き書き、語りべの活動をしています。
- 2 月1で曜日指定なし ③ 20名
- 4 #楽しく真剣 #地元の方と仲良し #アクティブ
- 5 ボランティアと聞くとハードルが高いかもしれませんが、私たちと一緒に自分なりの“ボランティア”を見つけてみませんか?



代表:塩原 美緒 | E-mail:office@haru-tohoku.org

### 07 震災復興・地域支援サークル ReRoots



X

震災関係 登録内

- 1 「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」。震災直後から支援の形を変えながら、農村の持続を目指し、地域に根差した活動を続けています!!
- 2 毎週火曜日 19:00~22:00 ③ 36名
- 4 #地域農業や農家の支援 #農村と都市の人の往来づくり #地域福祉の形成
- 5 一緒に本気の地域おこしやってみませんか!?



代表:池田 杏梨 | E-mail:reroos311@yahoo.co.jp

### 08 国際ボランティア団体 As One



Instagram

国際 登録内

- 1 私たちAs Oneは、海外建築・東北支援・居場所づくりの3つを活動理念とし、国内外ともに支援活動を行っている団体です。2022年度はカンボジア、2023年度はフィリピンで住居支援活動を行いました。
- 2 月曜日 ③ 59名
- 4 #海外での建築支援 #震災について学ぶ #東北の復興支援
- 5 海外での支援活動に興味のある方、何かにチャレンジしてみたい方、やりたいことが見つからない方、どんな方でも大歓迎です!!



代表:橋本 拓弥 | E-mail:tohoku.asone2013@gmail.com

## 09 東北大学フェアトレード推進サークル amo

- 1 フェアトレードについて学び、社会に広めていく活動をしている団体です。フィールドワークやNPO法人・大学生協とのコラボ商品作り、ワークショップなどを行っています。
- 2 メンバーの都合に合わせてその都度決定 3 若干名
- 4 #フェアトレード #国際貢献 #オリジナル商品
- 5 現在メンバー不足のため、活動休止中です。フェアトレードに興味があり、活動してみたい方はぜひご連絡下さい。

国際 登録内



HP



代表:長尾 花奈 | E-mail: amo.fairtrade.tohoku@gmail.com

## 10 東北大学ボランティアサークル あすなさ~ASUNASA~

- 1 警察や仙台市、市民団体と連携しながら、大学生にできる防犯ボランティアについて考え、活動していく団体です。結成して2年目の若い団体です!
- 2 毎月第2火曜日(セメスター毎に変更) 3 13名
- 4 #立ち直り支援 #街頭安全 #サイバー犯罪
- 5 学年問わずメンバー大募集中です!少しでも興味があれば、ぜひお声がけください!

防犯 登録内



Instagram



代表:大儀 凜果 | E-mail: asunasa2022@gmail.com

## 11 東北大学 公共空間ポッチャプロジェクト D&I

- 1 私たちは、仙台市内を中心にまちなかでユニバーサルスポーツであるポッチャの体験会を企画・運営し、誰もが過ごしやすい共生社会の地域づくりを目指しています!
- 2 毎月第4水曜日 3 24人
- 4 #公共空間ポッチャ運営 #まちづくり #心のバリアフリー
- 5 学部生、院生、教職員の方々など、様々な属性のメンバーが楽しく活動しています!一緒にポッチャしましょう!

地域支援 登録内



Instagram



代表:鈴木 悠平 | E-mail: boccia.tohoku.univ@gmail.com

## 12 東北大学光のページェント Navidad

- 1 私たちの主な活動目的は仙台で12月に行われる光のページェントの運営です!活動内容は12月の運営スタッフをはじめ、月1、2回の定例会議です。
- 2 毎月1、2回 指定の土曜日17:00~18:30 3 16名
- 4 #光のページェントのスタッフがができる #自分が考えた企画が実施されることも魅力!
- 5 私たちと一緒に光のページェントを盛り上げましょう!

地域支援 登録内



Instagram



代表:市川 涼 | E-mail: student\_hikape@outlook.jp

## 13 NPO法人 ケアブレンド

- 1 多様な職種、年代の方が集い交流する「ケアブレンドカフェ」を運営しています。楽しく過ごせる場で助け合いのきっかけづくりを目指しています。宮城県内で1ヵ月あたり、1、2回程度、活動頻度は自由です!
- 2 特になし
- 3 2名(東北大生)、他大学・高校生、社会人ボランティア多数
- 4 #交流会の運営補助 #学生の居場所づくり #児童~高齢者の話し相手、遊び相手
- 5 地域のコミュニティづくりに関心のある方募集中です!

地域支援 登録外



HP



代表:中山 良子 | E-mail: jam19801218@gmail.com

## 14 NPO法人 COLLAWAKE(コラウェイク)

- 1 出会いを通じた地域活性化を目指し、地元企業の魅力を伝える「ランチde就活」ポータルサイトの運営、企業・学生の交流イベントの企画実施、魅力的な地元企業の発掘等を行っています。
- 2 随時。メンバー間で調整 3 15名
- 4 #キャリア支援 #出会いを通じた地域活性化 #価値共創
- 5 地域の魅力的な経営者・社会人を発掘・取材したい方、イベントやメディアの企画・運営をしたい方、お待ちしております!仙台を元気にする新規事業も立ち上げるので、興味がある人はメールをください。

地域支援 登録外



HP



代表:築瀬 裕子 | E-mail: info@collawake.or.jp

## 15 特別支援室・学生サポーター

- 1 障害に関係なく誰もがともに学べるキャンパスをつくるため、障害学生の修学支援を行っている団体です。聴覚障害学生への情報保障や移動に困難がある方のためのバリアフリーマップ作成など、様々な活動を行っています。
- 2 不定期(月1回) ③ 43名
- 4 #障害学生支援 #東北大学有償ボランティア
- 5 学部学年を問わず、興味関心のある方お待ちしております!

教育・学習支援 登録外



X



代表:東北大学 特別支援室 | E-mail:t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

## 16 NPO法人 アスイク

- 1 子どもの貧困、不登校、ひきこもり、ヤングケアラーなどの様々な課題に対し、学習支援やフリースペースの運営、子ども食堂、食料・訪問支援などを行っています。
- 2 特になし ③ 各教室3~5名(教室により異なります)
- 4 #学習・居場所支援 #不登校・ひきこもり支援 #話し相手・遊び相手
- 5 困難を抱えた子どもたちとつながり支え、子どもたちが前向きになるきっかけをつくるために。私たちと一緒に活動しませんか?ご連絡お待ちしております!

教育・学習支援 登録外



HP



代表:大橋 雄介 | E-mail:vol@asuiku.org

## 17 認定NPO法人 キッズドア

- 1 仙台市宮城野区(JR仙台駅東口)にて仙台市及び近郊に住む経済的困窮家庭世帯の中学生を対象に無料学習会を開催。勉強だけでなく体験学習やアクティビティも多く開催しています。
- 2 学習会ごとにミーティング有。半年に一度振り返りも行います。
- 3 ボランティア登録者100名以上(学生、社会人合計)
- 4 #中高生の学習サポート #話し相手、遊び相手 #一緒に楽しく勉強!
- 5 中学生にとって年齢の近い大学生は心強い存在です。子どもたちと接することが好きな方、お待ちしております!

教育・学習支援 登録外



HP



代表:渡辺 由美子 | E-mail:tohoku@kidsdoor.net

## 18 仙台自主夜間中学

- 1 仙台市生涯学習支援センターで開講しています。病気や障がい、家庭の事情、不登校などで学校での学習を満足にできなかった方々に寄り添い、学び直しのお手伝いをします。
- 2 活動は月2~4回(昼間部:第1・3水曜日、夜間部:第1・3水曜日、第2・4金曜日)
- 3 37人(東北大生3人)
- 4 #大人の学び直し支援 #多様な学びの場 #みんなで季節の行事
- 5 様々な年代の人と関わりたい、学んできたことを活かしたい、教育活動に興味がある、そんな人におすすめです。理系文系や年齢を問いません。見学も可能です!

教育・学習支援 登録外



Blog



代表:中澤 八榮 | E-mail:sendai.yakan@gmail.com

## 19 NPO法人 TEDIC

- 1 【心のひとりぼっちのいない街、石巻】を合言葉に、石巻圏域で子ども・若者の支援をしています。勉強、お話、遊び、ただ一緒にいる...一人ひとりに向き合うことを大切に活動しています。
- 2 月に1回 ③ 30名程度
- 4 #子どもの学習生活支援 #居場所づくり #フリースクール
- 5 子どもと関わるのが好き!経験してみたい!という方大歓迎!仙台に居住している大学生も活動しています!詳しい活動情報やボランティアの登録はインスタグラムを確認してください!

教育・学習支援 登録外



Instagram



代表:鈴木 平・大津 賢哉 | E-mail:seicon@npo-tedic.net

## 20 一般社団法人 ワカツク

- 1 若者が活躍できる東北をつくるため、若者活動の支援や地域連携をしています。仙台では若者の活動を表彰するアワードも開催。能登半島地震で活動する学生グループの支援も実施中。
- 2 不定(メンバーの都合で設定しています)
- 3 26名(社会人6名、学生メンバー20名)
- 4 #まちづくり #若者と企業との連携 #能登半島地震支援
- 5 大学の枠を越えて活動したいなら、ワカツクの門を叩いてください。市内他大学のみならず、全国の学生とも繋がれます!

キャリア・若者 登録外



Instagram



代表:渡辺 一馬 | E-mail:info@wakatsuku.jp